

門	1
類	5
項	3
號	

普通
受筆 35 號
11. 12. 18

附屬書類添附

亞細亞局

大正十九年十一月十二日

大正十九年十一月十二日

在鐵嶺

領事

岩村成九



外務大臣伯耆内田康哉殿

大正十九年十一月十一日附朝鮮總督府内務局長宛
第四八號 寫送付

件名

一 柳河保民會囑託医皮膚瘰癧之病石件

より

在朝鮮人對其施設
衛生施設
第三課



四八

大正十一年十二月十一日

在鐵嶺

領事 岩村成允

朝鮮總督府内務司長殿

柳河保民會囑託醫皮照泰ニ関スル件

柳河警察官吏出張所原田警察部補ヨリノ報

若二依レハ全地保民會囑託醫皮照泰ハ今因

柳河縣令署ノ若二囑託トシテ囑託ノ形式ニ

致テ轉セラルハコトト相成候趣ニ有之別紙報告

書柳參考廷并ニ及御送付候御査閱相

在鐵嶺日本領事館

成度此致申進候敬具

本信馬送附先 外務大臣

在奉天總領事

大正十一年十二月三日

柳河警察署官吏出張所駐在

原田警部補

水野鐵嶺領事館敬啓署長殿

皮囑託醫ニ對シ柳河縣知事ヨリ

聘任書交付ノ件報告

當地駐在朝鮮人保民會囑託醫皮照表氏ハ本年八月當地ニ赴任以來専心職務ニ當リ一視同仁主義ヨリ立脚シ當地方内朝鮮人ハ勿論支那人側ニ對シテモ熱誠ナル療法ヲ施シタル結果其ノ成績頗ル見ルヘキモノアリ從テ當地支那官憲ハ勿論

在鐵嶺日本領事館

紳商間ノ信用最モ良好ナリ皮氏ノ熱實ナル技量ヲ認メタル當縣陳知事ハ當縣公署ノ名譽医官トシテ聘スルニトナリ去月三十日付テ別紙通ノ如キ聘任書交付サレタル由昨旦皮氏ヨリ申出テタルニ依リ及報告候也

延而當縣ニ放テ外國醫ヲ聘任シタル皮氏ヲ以テ嚆矢トスヘラ當地支那側ノ一般信用シアルトエロナリ如斯ハ將來日鮮支人相互ノ交情ヲ親密ナラシムルノ一端トナルヘラ當縣陳知事ノ言ナリト云フヲ聞クニ近ク皮氏ノ功勞ヲ奉天省長ニ稟申シ相當表彰スヘシト當縣皮氏ノ開院式ニ際シ陳知事ハ惠中醫院ト自題自署シタル標札ヲ贈與タル由ニテ惠中

醫院ノ名命タルヤ平素中華民國人惠
恩ヲ施シタルヲ認メタルニ因リト

以上

本館隔送付先

海龍分館

(昨付書局照カ)

在鐵嶺日本領事館

亞細亞局

第 二 九 八 號

大正十一年十一月十一日

在鐵嶺

領事

岩村成允



普通
受第 334 號
11.12.18

要自付了

外務大臣伯爵内田康哉殿

大正十一年十二月一日附朝鮮總督府內務局長宛

第四五號寫送付

件名

一、海龍、推虎、西方館管内、於今、鮮人、移居、之、療、機、



朝鮮第四五號

大正十一年十二月一日

在鐵嶺

領事 岩村成允

朝鮮總督府內務局長殿

海龍撫鹿兩分館管内ニ於ケル鮮人醫

療機關ニ関スル件

曩ニ撫鹿分館管内大疣痘及海龍分館管内北
山城子ニ鮮人醫療機關設置ノ件御承認ヲ得
居候處續開設ニ際シテハ慎重調査ヲ要スルニ付
幸ニ過般本官貴府派遣ノ洪事務官ト共ニ奧

在鐵嶺日本領事館

地視察ノ際篤ト實地ニ就キ調査シタル結果本
年度ニ設テハ屯記ノ通度更致度右ハ洪事務官
ハ勿論兩分館主任トモ協議濟ニ候間御承認相
成度尚又來年度ニ於テハ本年設置シタル箇所ノ
外更ニ海龍分館管内南山城子及當館管内開原
縣ハ標樹ノ二箇所ニ醫療機關ノ設置ヲ必要ト認
メ候ニ付右實施方御配慮相成度此段申進候
敬具

記

一撫鹿分館管内西安(大疣痘)及其附近ニハ在住鮮
人少數ニシテ全地ニ醫療機關ヲ設置スルハ位置
トシテ適當ナラスト認メラル而シテ全分館管内
ニ最も多數鮮人ノ居住スルハ東豐縣橫道河子

ナルモ全地ハ海龍縣北山城子ヲ距ル僅ニ三十英里
ナルヲ以テ北山城子ノ廻回區域トスルヲ便利トス
ヘク又撫鹿ニハ日本赤十字社救療所ノ日本人醫
師アリテ從來ヨリ相當鮮人ニ對スル施療ヲナシ
ツアレバ今新ニ此地ニ鮮人囑託醫ヲ配置スルハ同
醫師ノ生活ヲ脅威スル結果ヲ生スルコトヲ考慮
セザルヘカウ升ルカ故ニ本年年度ニ於テハ撫鹿分館管
内ニハ新ニ醫療機關ヲ設置スルコトヲ見合ハセ之
ニ代フルニ該機關設置ヲ更ニ緊切ト認ムルニ三源浦
ニ實行スルコト、致度ク

右柳河縣下三源浦ニハ其附近ニ數千ノ鮮人在
住スルモ醫療機關ナク之ヲ柳河ノ廻回區域ト
スルモ右通路ハ平素馬賊又ハ不逞鮮人横行シ

在鐵嶺日本領事館

テ不穩ナル場合多キヲ以テ之カ實施困難ナルノ
ミナウスニ三源浦在住鮮人ハ一般ニ全地ニ醫療機
關ノ設置ヲ切望シ居ルニ付本年年度撫鹿朝鮮
會ヘ補助セラレタル醫療費ヲ三源浦保民會
ニ補助セラレ全地ニ右機關ヲ設置スルコトハ度
更致度

而シテ撫鹿ニハ來年度ニ於テ月額約百円見當
ノ補助ヲ仰キ赤十字社救療所日本醫師ヲシ
テ時々管内鮮人居住區域ヲ廻回施療セシムル
コト、致度キ希望ナリ

ニ海龍分館管内北山城子ニ現開業醫李珍河
ヲ囑託醫トシテ採用スル件御承認ヲ經タルモ
先般奧地旅行中全地通過ノ際小官及洪事

務官ハ在留日鮮人ノ意向ヲ聴取シタルニ李珍河
ハ技術其他ノ点ニ於テ同地トシテハ不十分ト認メ
テ付相當資格アル醫師ヲ派遣サレ度トノ
希望有之候間新ニ適當ノ人物ヲ採用スルノ必要
ヲ認メ候處當地囑託醫崔景河ノ知人ニシテ別
添履歷書ノ醫師採用ノ希望アル由ニ付御差支
ナク同人ノ北山城子保民會ノ囑託醫トシテ派遣
スルコトノ致度

從テ李珍河ハ限地開業醫ノ資格ナルト全地在
住者ノ關係上手當及赴任旅費ニ於テ減額御
補助相成タルモ新ニ有資格者ヲ赴任セシムル
モバ之ニ該當スル額増額御補助相成タシ

本信賜送附先 外務大臣

在鐵嶺日本領事館

履歷書保存者具

3,280
9,840

手印

要旨付

普通
受第333
17.12.18

亞細亞局

大正十一年十二月十一日

在鐵嶺

領事 岩村成允



外務大臣伯爵内田康哉殿

海龍撫鹿兩分館管内ニ於ケル鮮人
醫療機關ニ関スル件

當地ニ鮮人醫療機關ヲ開設シタルコトハ本月
十日附承分第ニ九五号拙信朝鮮人會狀况報
告中記載ノ通り有之候處尙未海龍撫鹿兩
分館管内ニモ同様鮮人ニ對スル診療機關設
置ノ必要ヲ認メ小官ヨリ朝鮮總督府ハ交渉
ノ結果海龍管内ニ於テハ柳河標子嶺北山城
子ノ保民會ニ同府ヨリ各年額參千貳百八拾
円貳ノ醫療費補助金ヲ下附シ右三箇所ニ保
民會ノ事業トシテ鮮人ノ診療機關ヲ開設
セシムルコトナリ當館ヨリ撫鹿海龍兩分館トモ
打合ノ上既ニ柳河ニハ京城醫學專門學校卒
業並鮮人醫師皮熊炎様子嶺ニ同平素生
趙炳憲少淑達シ夫々醫院ヲ開設シ全地保
民會囑託醫トシテ一般鮮人ノ診療及一般ノ
診療ニ從事シ又那官邊モ右醫院ノ開設ヲ悅
ビ居候又北山城子ハ現ニ鮮人醫師物色中ナレ
ハ是亦不日開設ノ達ニ至ルハナリ尚撫鹿管内ニ

在鐵嶺日本領事館

綴込名

第三課 花 役

ハ右ハ疎擧朝鮮人會ニ年額參千円ノ補
助金ヲ改メユトナリ居ルモ擧鹿ニ日本赤十字
社救療所アルニ付更ニ緊切ヲ要スル場所ニ
朝鮮人診療機關ヲ開設スルコトニ計畫中有之
候

右御參考迄報告申進候敬具

通送附先

在支那公使

在奉天總領事

在鐵嶺日本領事館

門	1
類	5
項	3
號	



瀋陽新民兩縣 鮮人に施療

奉天總領事館で今日から
大毎から藥品寄贈

奉天總領事館では二十一日出張し、遼陽の豫定で遼陽、新民兩縣の鮮人に對し、巡迴施療を十管で瀋陽縣では吳家荒を、新民縣では西公太堡を中心、附近各處を巡回すると、百は醫師の外松浦、木内、渡見の、醫氏で大坂毎日新聞社からはチャコールとサオノル大箱各一箱を寄附した。

奉天新民報 新聞 大正12年2月21日

在鮮人對施療
衛生施設

東京

一覽並仮免許員海習会終了三箇月件

内務局長宛

大正十一年二月五日

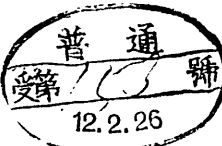
京第一七

號寫送付

門	1
類	5
項	3
號	

外務大臣伯爵内田康哉殿

總領事鈴木要太郎



在間島

大正十一年二月五日

公信第一三五號

綴込名

第三課

附屬書類添附

亞細亞局

京第一七號

大正十二年二月十三日

在河島

總領事鈴木要太郎

朝鮮總督府內務局長大塚常三郎殿

獸醫假免許員講習會終了ニ

附ハル件

本件ハ二月九日ヲ以テ終了候ニ付十日獸醫假免許員講習證書授與式ヲ舉行シタリ其ノ狀況左ノ通ニ候間此段申進候也

追テ獸醫假免許員講習員ニ對スル種痘施術ノ

講習ハ二月十二日ヨリ三日間施行可致申添候也

一、授與式ハ二月十日午前十一時ヨリ河島中央學校小教場（元農業學校）ニ於テ舉行シタリ
二、講習員ノ成績ハ別紙第一號ノ如シ
三、授與式ノ順序

- （一）末松警視、挨拶
- （二）古島講師ノ講習會經過報告
- （三）總領事、證書授與（證書ノ様式ハ別紙第二號ノ如シ）
- （四）總領事、訓示（別紙第三號ノ如シ）
- （五）講習員總代、答辭
- （六）來賓龍井村民會長李熙憲、祝辭

附屬書類添附

右及通報候也
本傍寫送付先
大臣 威鏡北道知事
各分館主任及署長

第

第

證

(第二條)

住所

氏

名

大正十二年一月十日ヨリ一箇月間修了シタ
ルコトヲ證ス
ル歟醫假免許員講習會ノ課程ヲ修了シタ

大正十二年二月十日

在川島

總領事鈴木要太郎

印

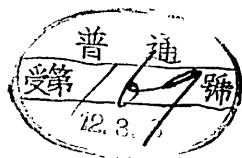
獸醫假免許員講習會終了ニ方リテ
 獸醫假免許員講習會ハ右島主任講師報告ノ如
 ク總員三十七名申僅ニ一名ヲ除ク外概ネ好成
 績ヲ以テ豫期ノ如ク講習ヲ終了シタルハ同島
 地方獸疫豫防上洵ニ慶賀ノ至リトスル處ナリ又
 特ニ進ニテ講習ヲ希望シタル三名カ三名共優
 秀ナル成績ヲ擧ケタルハ畢竟熱心ニ因ル賜ト
 シテ殊ニ欣快ノ至リニ堪ヘサル處ニシテ其熱
 心ニ對シ感謝ノ意ヲ表スル所以ナリ而シテ今
 回ノ講習員中ヨリ若干名ヲ選ビ假免許員ヲ命
 ズ獸疫豫防業務ニ從事セシムル豫定ナルヲ以
 テ同免許員ヲ命セラルタル者ハ勿論然ラサル

者ニ在リテ益獸疫ニ關スル學術ヲ研究シ其
 技能ノ進歩ヲ期シ大ニ獸疫豫防上ニ盡瘁セ
 ラレシコトヲ希望スル處ナリ惟フニ同島地方
 ノ獸疫豫防措置ハ在同島地方住民ノ獸畜衛生
 ノ向上ヲ圖ル上ニ於テ極バテ重大ノ意義ヲル
 者ニシテ獸畜就中牛ヲ以テ地方農民經濟力ノ
 源泉トモ見ルハキ現狀ニ在同島地方ニ在リ
 テハ此ノ經濟力ノ源泉タル惟一ノ牛力牛疫ノ
 為ニ自然ノ繁死ニ任セ其ノ病毒ヲシテ無限ニ
 播蔓セシムルハ之ヲ極端ニ謂ヘハ地方住民ノ
 消長ヲ顧ミサルニナリト言フヲ得可シ實ニ
 同島地方住民ノ消長ハ牛隻ノ蕃息ハト然ラ
 サルトニ由リ左右シ得ラルハ之ノナリト謂フ

ヘシ加之間島地方ニ於ケル歎疫豫防措置ノ完
ハ陸接ニ由リ病毒ハ彼岸ニ蔓延シ易ク直チニ
弊側ニ影響スルヲ以テ誠ニ公益ノ為重大ナル
義ヲ有ハルコトハ茲ニ縷述スルノ要ナシト思
ル尚歎疫豫防業務ハ當ニ在留日本人ノミナ
ハ間島在住外國人ノ福利ヲ増進スルヲ圖ルニ
在ルヲ以テ支那官憲ニ對シテ誤解ヲ起サシ
メ其ノ為メ歎疫豫防措置上支障ヲ來スカ如キ
コトナキ様善ク支那官憲側カ好意ヲ以テ進
テ其ノ措置ヲ援助スルカ如ク特ニ深甚ナル注
意ヲ拂ハレ以テ歎疫豫防ノ目的ヲ達成セラレ
ンコトヲ切望シテ已マサル所ナリ尚此ノ機
ニ於テ右島小島兩講師特川儒及通譯ノ任ニ當

リタル池巡查ノ勞ヲ謝ス
大正十二年二月十日

鈴木總領事



附

添附

亞細亞局

信箋一四九

大正十二年二月十九日

在間島

總領事 鈴木要太郎

外務大臣伯爵内田康哉殿

大正十二年二月十九日

往電第四

號寫送付

咸鏡北道知事宛

古島技手出發歸任ノ件

第三課公

送名ノ文





大正十二年二月十九日

鈴木總領事

咸鏡北道知事殿

往電第四号

古島技手本日出发帰任不同技手ハ必
遣中克々熱心ニ獸醫假免許員ノ教
育及警察官ニ對スル獸疫豫防ニ関ス
ル講話ヲ行ハレ多大ノ効果ヲ舉ゲ
得タルヲ感謝ス

在間島日本帝國總領事館

機密
受第 041 號
12. 3. 27

第二課
外務局

密付了

附屬書類添附

亞細亞局

別紙添附

(辛號用紙)

機密第四口號

第二課

大正十二年三月二十一日

總込名 施設

在浦潮斯德

總領事代理領事渡邊理惠

外務大臣伯爵内田康哉殿

朝鮮總督府派遣囑託員三箇スル件

本件ニ関シ別紙朝鮮總督府内務局長宛三月
十七日附浦朝茅二子寫御参考迄ニ此段御
送付申進候 敬具

在浦鹽日本總領事館



朝鮮ニ

大正十二年三月十七日

浦潮日本総領事館

朝鮮總督府事務官

内務局長殿

派遣囑託醫之関スル件稟申

一般朝鮮人施療事務之関シテハ早業ニ交渉シタルモ民會ニテハ施療券ノ配付ヲ受諾セサルヲ以テ他ノ宗教團體ヲシテ適宜配付セシムル計畫ヲ以テ其ノ意向ヲ索ノタルニ甚之ヲ諒トスルモノノ如キモ民會ノ受諾セサルモノヲ宗教團體ニ於テ受クルハ後難ノ惧アルモノト認メ躊躇シ今日ノ及

陸軍

ト来リ去ル三月一日独立記念式威風凛々ノ光景ニ徴シ民心ハ極度ニ達シタルモノノ如ク從テ施療ヲ請フ者ハ皆無ノ状況ニ有之殊ニ李承晩氏ハ從督府派遣官吏ト見做サレ何等カ同胞裏面ノ調査ヲ担任スルニ在ラサルヤヲ疑ヒ近來ハ其ノ行動ヲ偵察スルヲ以テ此際殊更ニ進テ施療患者ノ招來策ヲ講スルハ却テ疑惑ヲ深カラレムルノ有之現況ニ於テハ囑託醫ノ駐在ハ何等ノ意義ヲ為サス莫ク懸テ民心安定ニ施療ヲ實施シ得ヘキ機會モ可有之當分ハ形勢ヲ觀望スルノ外喜之モノト認メラレテ尼市ハ比較的諸般ノ所締後慢ニシテ從テ民心ニ稍平穩ヲ維持セラレアルノ状況ナルカキモ現在將來ニ於テ囑託醫

ヲ置キ地方鮮人一般患者ノ施療ニ從事シ得ヘキ
見込ノ有無調査中ニ付確定次第何分ノ儀稟
申可致右申進矣也

追テ李崎迄送ハ撤兵後財界不振ノ結果開業
以來一般收償患者ノ取扱甚稀ニシテ今日迄漸ク
施療券換算ノ名目ノ下ニ支給スル月額二百圓ヲ
以テ生活ヲ維持シ來リタルノ状況ナルヲ以テ現状繼
續フルニ於テハ本人ニ永住ヲ希望セサルカ如ク且
醫療費又撤兵後ハ民衆ノ補助ニ經理セシムル
コト能ハサルノミナラス施療患者ニ皆等ノ状態ナル
ヲ以テ施療券換算額トシテ全額ヲ支給スルハ
經理上適切ナラスト認メ其處今回有給囑託ト
シ(詳令未着)月額二百五十圓ヲ支給セシメラルコト

ニ決定ス成矣趣ニ就テハ此過度期ニ於テハ最
モ適當ナル措置ト認メ尤モ巡回診療ハ其ノ
效果著キモノト認メ其現下ノ状況ニ於テハ地方
旅行ノ安全ヲ保シ難ク且受診スルキヤモ疑ハレ申矣
ニ付年度内巡回診療ハ見合可然ト認メ其付
了知照隊交矣

同業多量ハ貸付ヤストノ事ニ其處同業ニ一箇年
繼續ヲ条件トシテ一時金三百圓補助ヲ成様出通
達有之矣ニ付既ニ三百圓融通立替出金次第ニ
有之同業ニ降シテハ種々設備費ヲ要シ且諸物
價ハ漸次高騰シ生活ノ困難ノ折柄ニ付可成同業
償トシテ三百圓条件附補助ノ事ニ其旨録照隊振
致交及依申矣

附屬書類添付

亞細亞局

第三課

公信第二四二號

大正十二年三月二十日

在間島

總領事鈴木要太郎

外務大臣伯爵内田康武殿

門類
類
項
號

間島及琿春地方在住鮮人ニ
種痘施行方ニ關スル件
本件ハ別紙間警第一二八二號寫ニ
依リ施行スルコトニ致候間此段及
報告候 敬具

追テ本件、關ニ朝鮮總督府、付
キ内務省長ト、間ニ照覆シタル公
信寫御參考迄、添付致候

(大蔵黒川製)

間警第二八二號

大正十二年三月二十六日

在間島

總領事 鈴木要太郎

各分館主任宛
各署長宛

在住鮮人、對シ種痘施行方ニ
関スル件
本件ハ左記各項ニ依リ實施セラレ度此致
申進候也
記

- 一、獸醫假免許員二十三名ヲシテ春季二箇月
間(秋季二箇月間)在住鮮人、對シ種痘
ヲ施行セシム、
- 二、種痘員タル獸醫假免許員、對シ旅費
及手當トシテ一箇月一人、對シ參拾圓(春季二
ヶ月分六拾圓、秋季ニヶ月分六拾圓一人計百二
十圓)ヲ給ス
- 三、種痘料ハ無料トス
- 四、種痘器具ハ追テ配布スヘシ
- 痘苗ハ當館ヨリ配付スヘキ、付所要數請
求アリ度シ
- (本館分担区域、城内各署長宛)宛送金セシム

五、春季實施狀況ハ七月一日迄秋季實施
狀況ハ十月一日マデ別紙様式ニ依リ各署
長ヨリ警察部長ニ申報スルコト

大正 年春(秋)種實施報告

何分館何署

種痘員(獸醫假免許員)何某實施ノ分

部落名
種痘實施日
種痘ヲ行ヒタル人員
計

計

備考 種痘實施ノ状況及之、關スル在住民ノ感想ヲ

記載スルコト

(註記 本表ハ種痘員毎ニ各別ニ調製スルコト)

京第一一號

大正十二年二月七日

在間島

總領事

朝鮮總督府內務局長殿

獸醫假免許許與ニ種痘施術方ニ關スル件

目下當館ニ於テ講習中ノ獸醫假免許許講習員ニ對シ種痘施
術ニ關スル教育ヲ併セ行ヒ講習終了後獸疫豫防業務ノ傍
種痘ニ施行セシムルハ在外鮮人保護機關育上極メテ機宜措
置ト認メ當地慈惠醫院長ト協議ノ上同施術ニ關スル教育
ニ付コトニ致候ニ付テハ獸醫假免許許與ノ種痘施術ニ關シ
左ノ事項御詮議ノ上何系ノ儀御回答相煩度此致及照
會候也

左記

在間島日本帝國總領事館

一獸醫假免許許與ニ三名ニ對シ輕便種痘器具一組宛ニ
貸與スルコト

右輕便種痘器具ハ貴府ニ於テ購入御送付相成度同
代金ヲ獸疫豫防補助金ヨリ支辦ノ儀御同意ヲ得ハ
同配當金ヨリ支辦可致候

二獸醫假免許許與ヲレテ行ハレハ種痘用痘苗ハ貴府ヨ
リ配付セラレタレ(従来ノモノ従前ノ通り)

三獸醫假免許許與ヲレテ行ハレハ種痘料金ハ一名ニ對シ
五錢以下トスルコト

種痘料金ニ無料トスレハ希望スル所ナルニ地方ニ出

館事領總國帝本日島間在

張	施	術	ニ	要	スル	為	旅	費	ニ	要	レ	又	種	痘	ヲ	勵	行	セ	レ	ム	ル
上	、	於	テ	ハ	料	金	ヲ	徴	セ	レ	ム	ル	ハ	已	ム	ヲ	得	サ	ル	處	ナ
本	信	寫	送	付	先																
成	鏡	北	道	知	事																

大正十二年二月十九日

内務局長

在間島
鈴木事務官殿

獸醫做免許員ニ種痘施術方
ニ関スル件

首題ノ件、関シ二月七日附京第二號御照
會、趣了承右、左記、通御了知相成
度及回答候也

一、輕便種痘器具購入器ヲ獸疫豫防費

補助金中ヨリ支出スルコトハ賛同致業スルニ

付別途貴地朝鮮人民會ニ對シ醫療

費補助金ヲ下附シ之、依リテ同器具購

入、上現品送付スヘシ依テ豫メ右補助金中

請書（金額記入、不及）及右受領方、関ス

ル當該民會長ヨリ本府屬吉村傳宛、委

任狀一通送附相成度

二、種痘用痘苗苗ハ所要數量ノ報告ヲ

俟ツテ之カ購入費ヲ補助スヘキニ付是亦

前項ニ準シ處理相成度

三、種痘料ノ徴收ハ當分ニ見合スヲ適當ト認メラル

但シ旅費手當ノ意味、於テ多少ノ補助金ヲ下附スルニ差

（大坂黒川製）

館事領總國帝本日島間在

支ナレ

REEL No. 1-0511

0090

京第二九號

大正十二年三月一日

在間島

朝鮮總督府事務官鈴木要太郎

朝鮮總督府内務局長殿

獸醫假免許實三種痘施打方開スル件

二月十九日附シハニ御通牒相成候旨題ノ件御申越ノ通牒紙醫療費補助申請書及委任狀送付候條補助方御取計相成候様致度此致申進候也

記

一、同貴條第二項ノ種痘用痘苗所要數一萬八分(春秋各五千)

二、同第三項手當ノ意味ニ於ケル旅費ハ春秋二回之ヲ實施スル

在間島日本帝國總領事館

エト、シ各ニヶ月トシテ何レモ一ヶ月參松園宛免許項二千

三名ニ對シ一名四ヶ月分二千七百六拾圓ヲ要スル次第ナリ

寫

社第 五九 號

大正十二年三月三十日

内務局長

川島

鈴木事務官殿

龍井村朝鮮人^{居留}民會ニ對スル醫

療費補助金下附ノ件

首題ノ件ニ關シ三月二十日附京第ニ九號ヲ以テ御

申越ノ趣ヲ承依テ令般別紙指令ノ通補助金貳千

八百六拾圓也下附相成候處右ノ左記内譯ノ通交

付セラレタル次第ニ付此ノ旨當該會長ニ御示達

在關島日本帝國總領事館

相成候及通牒候也

追テ痘苗代金百圓也便宜本府ニ於テ支拂方取計

置候條御了知相成候處右種痘實施ノ状況ニ詳細

御報告相成候申添候

記

一、痘苗 二千具 一石圓

二、種痘費材料費及手當 貳千七百六十圓

二十三和分四ヶ月間（一ヶ月一人三十圓）

計貳千八百六拾圓

（大阪風川製）

社第 五九 第

龍井村朝鮮人居留民會長

李 鳳 憲

其、會ニ對シ醫療費補助金貳千八百六拾圓
ヲ下附ス

大正十二年三月二十日

朝鮮總督 齋藤 實

在關島日本帝國總領事館

附屬書

機密

送付書

第三課

綴込名

後役

大正十二年四月十七日

在浦潮

總領事代理領事渡邊理恵

機密
受第 86
12.4.24

外務大臣伯爵内田康哉殿

歐米局

記

大正十二年四月七日附浦潮機密第五号寫

朝鮮總督府内務局長宛

件名

尼市配屬囑託医採用ニ関スル件

寫

浦朝秘第 九 號

大正十二年四月十七日

浦朝日本総領事館

朝鮮總督府事務官

内務局長 殿

尼市配属嘱託醫採用ニ關スル件

朝鮮人施療患者診療ニ従事セシムル為ニ市
勤務ノ嘱託医採用方ニ關シテハ候補者タル浦
潮ニテ開業中ノ醫師金仁國ハ曩々報告ノ通
度業ヲ命セラレタルモ高森共產黨幹部連リ
朝鮮總督府嘱託医トシテ尼市勤務スルコトハ
既ニ其ノ諒解ヲ得タルモ最近ニ到リ邊ニ親目依

ト目セラルル鮮人ニ對スル高麗共產黨員ノ迫害
ハ稍具體化シ来リタル為其ノ多クハ避難シツツ
アル状況ナルヲ以テ更ニ幹部員就キ尼市開業上ノ
安全ヲ謀リタルニ今日ノ状況ニ於テハ稍危険
ナル旨ヲ告ケタル趣ヲ以テ尼市勤務ヲ断念シ近
ク帰鮮スキマシ定ニ美高尼市開業中ノ候補者
朴潤夏モ曩々度業ヲ命セラレ既ニ轉任ノ者ニ
有之矣而シテ鮮人ノ施療事務ハ前述ノ如キ高森
共產黨員ノ不逞行動ニ伴ヒ民心亦非常ニ惡化
シ嘱託醫ノ施療ヲ請フヲ躊躇スルノ現状ナルヲ
以テ尼市配属ノ嘱託医採用方ハ一時見合可
然モノト認メ去然ルニ在任鮮人ハ目下生活上非常
ニ困窮ナル境況ニ在リ且如斯不逞行動ハ一時現

象、ニテ必ス定安ノ機會可有之候テ一般民、
対スル一部不逞國ノ露伴ニ漸次融和シ得キモノ
ト認メ、是ニ付尼市配屬囑託迄ハ後日採用シ得ヘ
ク適宜豫算保留スル様段及申進ス也
西裝迄先
從領事、ニコリスク郡司別領事

附屬書類添附

亞細亞局

第三課

卷第一

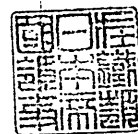
續述

後
叙

大正十二年四月十九日

在鐵嶺

領事 岩村成允



外務大臣伯爵 內田康哉 殿

娶自付了

普 通
受第 12.4.24

朝鮮人團體醫療費補助金ニ關スル件

今般朝鮮總督府ヨリ當館管內朝鮮人團體ニ對ス
ル本年度醫療費補助金ハ大体別表寫ノ通ニテ不
小官宛通牒セラルル筈ノ旨申越有之候右ハ本省ト
打合濟ノコトト存候得共念ノ爲右及御送付候間
御査閱相成度此段申進候敬具

在鐵櫃日本鐵事館

在外朝鮮人團體療費補助金

巡回治療所経費補助

地方別	診療券換金	巡回診療券	雑費	入費	其 他	計
鐵嶺	月一五〇 一八〇〇	一〇〇 一〇〇〇	二〇〇 二〇〇〇	五〇 五〇〇		二八五〇
柳河	月一七〇 二〇〇〇	八〇〇 八〇〇〇	二〇〇 二〇〇〇	五〇 五〇〇		三〇五〇
様子嘴	月一四〇 一六八〇	八〇〇 八〇〇〇	二〇〇 二〇〇〇	五〇 五〇〇		二七三〇
北山城子	月一四〇 一六八〇	八〇〇 八〇〇〇	二〇〇 二〇〇〇	五〇 五〇〇		二七三〇
三源浦	月一六〇 一九二〇	八〇〇 八〇〇〇	二〇〇 二〇〇〇	五〇 五〇〇		二九七〇
南山城子	月一四〇 一六八〇	八〇〇 八〇〇〇	二〇〇 二〇〇〇	五〇 五〇〇	郵便料 開業準備金 二五〇 三〇〇	三一八〇

視察團補助

鐵嶺地方 一五〇〇

在鐵嶺日本領事館